

開講年次・時期	2年後期	授業回数	15回	時間数	30時間	授業形態	講義	単位数	2単位
---------	------	------	-----	-----	------	------	----	-----	-----

科目名	国際経済論Ⅱ	担当者名	沼田 郷
授業の概要	我々の生活は諸外国との関係抜きには成立しません。しかしながら、その関係を理解することは容易でないことも事実です。したがって、本講義では国際経済論の基礎的な理論と実態経済をバランスよく学んでいただけるよう配慮しています。		
科目の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な知識・技能の重要な要素を理解し、特定することができる。</li> <li>・手順書や他者の指示に従うだけでなく、現実の状況を踏まえ、実行可能な代替案を考えることができる。</li> </ul>		
授業時間外学修 (予習・復習)	予習: 次回までに講義において指定した文献を熟読する(60分) 疑問点や質問事項を整理する(30分) 次回の講義に関連する新聞、経済誌を読む。また、統計等を確認する(60分) 復習: 講義ノートをつくる。疑問点や質問等を整理する(60分) 参考文献等を読む(60分)		
フィードバックの方法	講義内レポートに関しては、次回の講義においてテーマの背景や改善点等を説明します。 中間レポートに関しては、締切以降の講義において、テーマの背景や改善点を説明します。		
単位認定の要件	基本的に講義形式にて行います。レジュメや資料などは随時配布します。講義の理解度や疑問等を確認するための講義内小レポートを4回程度作成・提出してもらいます。提出物に対するフィードバックは授業中に行います。		
評価の方法・割合 (%)	講義内小レポート : 20% 中間レポート : 30% 試験 : 50%		
履修上の注意事項	社会で起こる様々な事象に関心をもってください。参考文献等は、可能な限り目を通してください。		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1			マネーに翻弄される世界(資源、食料価格の高騰)	アンケート形式(フォームズ使用)
2			サブプライム問題とは何だったのか	アンケート形式(フォームズ使用)
3			サブプライム問題の教訓(金融規制:トービン税ほか)	アンケート形式(フォームズ使用)
4			カジノ化する世界	ミニッツペーパー
5			ブレトンウッズ体制とニクソンショック	アンケート形式(フォームズ使用)
6			「基軸通貨」の動揺	アンケート形式(フォームズ使用)
7			国際労働力移動(米国)	アンケート形式(フォームズ使用)
8			国際労働力移動(EU)	アンケート形式(フォームズ使用)
9			国際労働力移動(フィリピン)	ミニッツペーパー
10			経済格差	アンケート形式(フォームズ使用)
11			途上国問題と貧困	アンケート形式(フォームズ使用)
12			グラミン銀行(ムハマド・ユヌス)	ミニッツペーパー
13			援助と開発(A.セン)	アンケート形式(フォームズ使用)
14			人口と食料問題	ミニッツペーパー
15			後期のまとめ(より深い理解のために)	アンケート形式(フォームズ使用)
期末試験			試験あり	

使用テキスト	特に指定しませんが、参考文献は随時お知らせします。
参考文献 参考URL	浦田秀次郎、小川栄治、澤田康幸『はじめて学ぶ国際経済』有斐閣、2022年。
備考	特記事項なし

開講年次・時期	3年後期	授業回数	15回	時間数	30時間	授業形態	講義	単位数	2単位
---------	------	------	-----	-----	------	------	----	-----	-----

科目名	経営分析論	担当者名	松本 大吾
授業の概要	企業の経営活動は、貨幣数値で認識・測定され財務諸表に集計されます。財務諸表を読み解く力は、近年、すべての社会人に求められると言っても過言ではなくなりました。この授業では、財務諸表を分析することで、企業イメージにとらわれない客観的な会計情報を根拠に、企業の経営実態を理解する方法について学習します。おもに、単体財務諸表の分析・解釈が出来るようになることを目標とします。		
科目の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財務諸表の種類と役割を理解することができる。</li> <li>・財務諸表の数字を客観的に捉え、その良否を判断することができる。</li> <li>・さまざまな経営指標の意義を理解して算出することができる。</li> <li>・表やグラフにした複数年の経営指標の推移を説明することができる。</li> </ul>		
授業時間外学修(予習・復習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習 次回講義内容の精読(教科書):120分</li> <li>・復習 提出課題の確認&amp;講義内容の復習:120分</li> </ul>		
フィードバックの方法	提出物に対するフィードバック(講評、解説等)は授業中に行います。		
単位認定の要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は講義形式で進めます。毎回の講義の基本的な流れは、財務分析の理論を学習した後、数値例を用いた分析・解釈の順で進めます。</li> <li>・单元ごとに理解度確認のための提出課題(Microsoft Formsを活用。Formsを使用できない学生には紙で配布します)をほぼ毎回課します。</li> <li>・期末には試験の実施または課題を課します。</li> </ul>		
評価の方法・割合(%)	平常点(20%)、单元別提出課題(40%)、期末試験(40%)。		
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集中講義で実施します。</li> <li>・欠席するとその日提出すべき单元別提出課題が未提出となり成績に影響します。</li> <li>・授業では毎回資料を配布します。配布資料は期末試験において「持ち込み可」とするので、あとで資料を読んだときに理解できるように、授業中は教員の説明を聞いて各自メモやノートを取ってください。</li> <li>・質問等は毎回の講義、e-mail、オフィスアワーで随時受け付けます。</li> <li>・簿記の知識は講義を理解する上で助けになりますが、必ずしも必要ではありません。</li> <li>・分析は四則計算が中心ですので、電卓を忘れずに持参して下さい。</li> </ul>		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1			ガイダンス(授業概要と進め方・評価方法)	
2			財務諸表の役割・種類・仕組み	
3			財務分析の基本体系	提出課題
4			安全性の分析1:支払能力の分析の意義と測定方法	提出課題
5			安全性の分析2:安定性の分析の意義と測定方法	提出課題
6			安全性の分析3:資金運用効率の分析の意義と測定方法	提出課題
7			収益性の分析1:資本利益率の分析意義と測定方法	提出課題
8			収益性の分析2:売上高利益率の分析意義と測定方法	提出課題
9			安全性分析、収益性分析のケーススタディ	提出課題
10			損益分岐点分析1 損益分岐点の意義・求め方	提出課題
11			損益分岐点分析2 変動費と固定費の意義・分解	提出課題
12			成長性の分析	提出課題
13			株価関連の分析指標	提出課題
14			企業の総合評価	提出課題
15			講義の総まとめと期末レポートの説明	リアクションペーパー
期末試験			期末試験または期末レポート	

使用テキスト	教科書:『新版 入門経営分析【第2版】』倉田三郎監修、同文館出版、2015年。
参考文献 参考URL	参考書:『財務3表一体理解法』国貞克則、朝日新書、2007年。 『【新版】財務3表一体分析法』国貞克則、朝日新書、2021年。 『ビジネス会計検定試験公式テキスト3級【第4版】』大阪商工会議所編、中央経済社、2019年。

開講年次・時期	2年後期	授業回数	15回	時間数	30時間	授業形態	講義	単位数	2単位
---------	------	------	-----	-----	------	------	----	-----	-----

科目名	文化社会学	担当者名	清川 繁人・木原 博
授業の概要	この授業では、青森県や他県、他地域の食・歴史・芸能・言語などについて紹介します。そして、各分野の知識を学びながら、理解を深めていきます。授業の後半では、各自でテーマを設定し、調べたものをまとめ、発表します。		
科目の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちが生活する地域に目を向け、その歴史や特徴、様式に関する理解を深めることができる。</li> <li>・特定の地域だけではなく、様々な地域の文化を知り、比較しながら文化に関する知識を習得することができる。</li> </ul>		
授業時間外学修(予習・復習)	予習としては、授業に先出って教材を読み、理解できる点とできない点を腑分けしておくことが望ましい。また、復習の一環として、区切りとなる箇所ごとにミニ・レポートを課す。		
フィードバックの方法	小レポートのフィードバックは、返却時に行う。また、必要に応じて課したものについては、次回の授業時にフィードバックする。		
単位認定の要件	この授業は、講義形式でおこないます。また、2名の教員が担当するため、15回の授業は前半と後半の2パートにわけて進めます。各パート終了後には小レポートを課します。そして、全授業終了後には最終課題に取り組んでいただきます。		
評価の方法・割合(%)	最終課題(50%)、小レポート(50%※2回分)		
履修上の注意事項	専門的概念を知識として習得することよりも、私たちの生活を振り返りながら身近なこととして捉えることが重要です。		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1			イントロダクション、日本の食文化	リアクションペーパー
2			青森の名産と郷土料理	リアクションペーパー
3			日本人の生活	リアクションペーパー
4			侍と忍者	リアクションペーパー
5			神道・仏教・修験道	リアクションペーパー
6			日本人のルーツと縄文文化	リアクションペーパー
7			中間まとめ・小レポート作成の説明	リアクションペーパー
8			芸能①【歴史・課題】	リアクションペーパー
9			芸能②【担い手・伝承】	リアクションペーパー
10			言語①【調べる・まとめる】	リアクションペーパー
11			言語②【話す】	リアクションペーパー
12			文化①【調べる・探す】	リアクションペーパー
13			文化②【まとめ・発表】	リアクションペーパー・発表資料
14			まとめ、小レポート作成の説明	リアクションペーパー
15			全体まとめ・最終課題の説明	小レポート(2回分)振り返り
期末試験			実施しない	

使用テキスト	
--------	--

参考文献 参考URL	【参考書籍】 蜂谷翔首(マジカルトリップ)(著),松本まさ(マジカルトリップ)(著) 2022 『今こそ学びたい日本のこと:知っているようで知らない日本人の心、食文化、職文化、信仰、地域の魅力など(地球の歩き方)』Gakken
備考	

開講年次・時期	2年後期	授業回数	15回	時間数	30時間	授業形態	講義	単位数	2単位
---------	------	------	-----	-----	------	------	----	-----	-----

科目名	地域計画論	担当者名	石井 重成
授業の概要	授業前半では地方創生の事例やキーワードについて多面的に学びます。授業後半では「あなたが青森市長だったら、どんな政策をつくりませんか」という問いに対してグループ討議・研究を行い、プレゼンテーションを実施します。		
科目の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地方創生」について、その背景や事例・キーワードを理解できる。</li> <li>・青森市の計画を学び、グループワークによって政策を議論し、プレゼンすることができる。</li> </ul>		
授業時間外学修 (予習・復習)	授業で学んだこと/自身の考えをノートにまとめる   120分 プレゼンテーションに向けた自主研究・グループでの準備を行う   120分		
フィードバックの 方法	授業に関するフィードバック   各回 グループプレゼンテーションに関するフィードバック   最終回 その他相談事項に関するフィードバック   随時		
単位認定の要件	各授業の出席・議論への参加・グループプレゼン等により単位を認定する。 なお、各授業終了後にコメントシートを提出するものとする。		
評価の方法・割合 (%)	各授業の出席・参加意欲・討議内容   60% グループプレゼンテーションへの貢献度・内容   40%		
履修上の注意事項	本授業では、人口ビジョン・地方版総合戦略、関係人口、移住定住、中間支援機能、コレクティブインパクト、ファンドレイズ、観光DMO、ローカルSDGs、ローカルベンチャー、シェアリングエコノミー、ワーケーション、高校魅力化など、県内外の事例とともに地方創生のキーワードを学びます。 青森市役所や、地域でまちづくり・ビジネスに取り組む外部講師からの情報提供を織り交ぜながら授業を進行します。また、グループでの意見交換、各自のスマホを活用したオンラインQ&Aやアンケートなどを用いて、双方向のアクティブラーニング型授業を実施します。 授業で学んだことを生かし、自分なりの視点を組み立てながら、グループでの自主研究を行い、「あなたが青森市長だったら、どんな政策をつくりませんか」を題材にプレゼンテーションを行うものとします。		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1			オリエンテーション	
2			地方創生とは何か？①	
3			地方創生とは何か？②	
4			地方創生とは何か？③	
5			ゲスト講話①	
6			地方創生とは何か？④	
7			問題定義・解決の手法①	
8			ゲスト講話②	
9			問題定義・解決の手法②	
10			地方創生とは何か？⑤	
11			プレゼン準備・個別フィードバック	
12			プレゼン発表①	
13			プレゼン発表②	
14			プレゼン発表③	
15			まとめ(プレゼン予備日)	
期末試験				

使用テキスト	教科書は必要ありません。各授業で適宜参考文献を紹介します。
参考文献 参考URL	なし
備考	外部講師のスケジュールにより講義の順番・内容が変更となる可能性があります。

開講年次・時期	1年後期	授業回数	15回	時間数	30時間	授業形態	講義	単位数	2単位
---------	------	------	-----	-----	------	------	----	-----	-----

科目名	デジタル回路	担当者名	大島 和裕
授業の概要	1と0で表現されるデータを処理する回路をデジタル回路といいます。基本要素はAND回路、OR回路、NOT回路です。これらを組合せた論理回路の設計手順とその基礎になっているブール代数について順を追って学びます。カルノー図で論理式が簡単化される原理を学びます。さらにデータを記憶する順序回路の仕組みを学びます。		
科目の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブール代数と論理回路の関係を理解する。</li> <li>・真理値表と論理式に対応関係があることを理解する。</li> <li>・カルノー図による論理式の簡単化の原理を理解する。</li> </ul>		
授業時間外学修(予習・復習)	予習、次回の講義範囲を予め読んでおく(120分) 復習、講義の内容をノートにまとめ、課題に取り組む(120分)		
フィードバックの方法	小テストは確認後に返却し、講義中に解説を行います。		
単位認定の要件	中間・期末試験及び小テストの成績、講義への取組み状況を基に評価します。		
評価の方法・割合(%)	中間・期末試験の成績(60%)、小テストの成績(30%)、講義への取組み状況(10%)		
履修上の注意事項	教科書をもとに進めます。各講義の始めには前回学んだ内容の理解度をはかるため、小テストを実施します。スライド資料はWebサイトで共有します。理解しにくい点があった場合には、随時質問してください。		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1			デジタル回路とは	小テスト
2			スイッチ回路と真理値表	小テスト
3			ブール代数と論理式 I	小テスト
4			ブール代数と論理式 II	小テスト
5			真理値表と論理式	小テスト
6			論理式の簡単化 I	小テスト
7			論理式の簡単化 II	小テスト
8			中間試験、論理記号	小テスト
9			論理記号と真理値表、論理式	小テスト
10			論理記号変換	小テスト
11			組合せ論理回路	小テスト
12			加算器	小テスト
13			記憶回路	小テスト
14			フリップフロップ	小テスト
15			学習内容の確認	小テスト
期末試験			試験あり	

使用テキスト	教科書:「基礎からわかる論理回路」第2版、松下俊介、森北出版、2021年
--------	--------------------------------------

参考文献 参考URL	特になし
備考	特記事項なし

開講年次・時期	2年後期	授業回数	8回	時間数	15時間	授業形態	講義	単位数	1単位
---------	------	------	----	-----	------	------	----	-----	-----

科目名	薬学概論Ⅱ	担当者名	高橋 晃
授業の概要	薬剤師が果たすべき役割と責任について理解を深める。具体的には、外部から講師を招聘し、薬剤師の在り方について学んだり、医薬品製造工場見学の実施を通して、薬剤師が働く職場について理解したりする。以上のまとめとして、それまでの講義内容を振り返り、小グループに分かれて討議し、その成果を発表する。		
科目の到達目標	<p>薬剤師業務を適正に担っていくためには、豊かな人間性、医療人としての高い使命感、生命の尊厳に対する深い認識等を備えることが必要である。そこで、生涯にわたって自ら学ぶことの必要性・重要性を理解し、修得した知識・技能・態度を確実に次世代へ継承する意欲と行動力を身につけ、さらに、人の行動や考え方、社会の仕組みを理解し、人・社会と薬剤師の関わりを認識することを目標とする。</p> <p>薬学教育モデル・コアカリキュラム</p> <p>1 A(5)③ 生涯学習 2 A(5)④ 次世代を担う人材の育成 3 B(1) 人と社会に関わる薬剤師 4 B(2)② 医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範</p>		
授業時間外学修(予習・復習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>各講義予定範囲をシラバス等でチェックし、該当箇所に通し、分からない用語や疑問点があればまとめておく(120分)。</li> <li>各講義終了後、テキスト、配布資料をもとに復習をする(120分)。 重要項目をまとめたり、用語の意味などをチェックする。 課題やレポートに取り組む。</li> </ul>		
フィードバックの方法	学生からの質問については、原則次週までにフィードバックする。 課題・レポートについては、提出後最初の講義で解説する。		
単位認定の要件	試験はなく、課題・レポート、発表成果物、授業態度で評価し、60%以上で単位を認定する。		
評価の方法・割合(%)	課題・レポート(50%)、発表成果物(40%)、授業態度(10%)で評価する。		
履修上の注意事項	主に教科書を用いて説明し、薬剤師になる為の基本事項について学ぶ。 必要に応じてテーマを設定し、お互いの意見を聞くことにより理解を深める。 学外講師による講義も取り入れる。		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1			生涯学習①(パワーポイントを用いての説明)	課題・レポートの内容で確認
2			生涯学習②(学内の他教員によるパワーポイントを用いての説明)	課題・レポートの内容で確認
3			次世代を担う人材の育成①(パワーポイントを用いての説明)	課題・レポートの内容で確認
4			次世代を担う人材の育成②(学外講師によるパワーポイントを用いての説明)	課題・レポートの内容で確認
5			工場見学(実地見学かあるいはZoomを用いての見学)	課題・レポートの内容で確認
6			グループ討議(あるテーマについて小グループでの討議を実施)	発表内容・発表資料で確認
7			発表に向けての準備(パワーポイントで発表資料を作成・発表の練習など)	発表内容・発表資料で確認
8			発表(パワーポイントを用いて、グループごとに発表)	発表内容・発表資料で確認
期末試験				

使用テキスト	薬学総論Ⅰ(日本薬学会編、Ⅰ薬剤師としての基本事項)東京化学同人 配布資料(プリント等)
参考文献 参考URL	特になし
備考	スケジュールの順番は、事情により変更する場合がある。

開講年次・時期	2年後期	授業回数	8回	時間数	15時間	授業形態	講義	単位数	1単位
---------	------	------	----	-----	------	------	----	-----	-----

科目名	地域と健康 I (Adv.)	担当者名	佐藤 昌泰
授業の概要	<p>青森県をはじめとする北東北3県は、特に男性の平均寿命が全国ワースト3に位置し、また青森県は男女ともに最下位となっている。必ずしも平均寿命を延ばすことが理想とは言えないが、本人にとっても家族にとっても、「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」と定義づけられる健康寿命を延ばすことが望ましい。そこで「地域と健康 I」では、青森県を例に、食生活や生活習慣、気候等の健康に関わる事柄を調査し、短命県との関連を調査する。</p>		
科目の到達目標	<p>本講義は、「薬学アドバンス教育ガイドライン」のうち、下記のGIO・SBOの習得を目標とする。</p> <p>一般目標                  (2)人の行動と心理                  人の行動と心理に関する基本的な知識と考え方を修得する。                  (9)プレゼンテーション                  情報をまとめ、他者へわかりやすく伝えるための基本的事項を修得する。</p> <p>B 薬学と社会 【⑤地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】                  1. 地域社会における保健、医療、福祉の現状と問題点を調査し、地域による違いについて討議する。</p>		
授業時間外学修 (予習・復習)	<p>健康や病気、生活習慣に関し、地域の現状を調査する前に、インターネットや書籍を通じてあらかじめ既知の情報を調べておく(120分)。                  割り当てられた課題に関連した海外の研究事例を調査し、英文を読解する(120分)。</p>		
フィードバックの方法	<p>昨年の発表されたデータを開示し、良い点や不十分な点を学生と一緒に考える。                  最終プレゼン発表では、聞く側の学生の意見を引き出し、教員と一緒に問題点を検討する。</p>		
単位認定の要件	<p>グループごとに調査テーマを決定し、調査、ポートフォリオ(自作ノート)の作成、グループディスカッション、PowerPointファイルの作成、発表、レポート提出の流れで進行する。</p>		
評価の方法・割合 (%)	<p>毎回提出のプロダクト(40%)、発表の内容(40%)、青森県立保健大学が主催する「健やか力検定」試験の成績(20%)により評価する。</p>		
履修上の注意事項	<p>青森県出身の学生はもとより、県外の学生にとっても薬剤師の地域における役割を認識する上で本講義での取り組みは重要であるので、地元との対比をしながら短命県返上の解決策を探ること。</p>		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1			ガイダンス(グループ分け、テーマ提示、調査対象の仮決定、個々の調査分担の決定)	取り組むテーマを報告してもらう。
2			グループで決めた疾病について、インターネット・図書などによる調査を行う	調べた結果をレポートで報告。
3			グループで決めた疾病について、ディスカッションを行う	ディスカッションした内容を、レポートで報告。
4			グループで決めた生活習慣について、インターネット・図書などによる調査を行う	調べた結果をレポートで報告。
5			グループで決めた生活習慣について、ディスカッションを行う。	ディスカッションした内容を、レポートで報告。
6			プレゼンデータの作成をグループで作成する。	プレゼンデータを提出。
7			グループで決めた疾病や生活習慣について、青森県民に必要な対策を発表する。	発表を行い、教員とディスカッションする。
8			青森県立保健大学主催の検定『あおもり「健やか力」検定』を受験する。	検定を受験、採点。
期末試験				

使用テキスト	なし
参考文献 参考URL	なし
備考	本科目は「地域の健康 II」の導入科目となる。

開講年次・時期	3年後期	授業回数	8回	時間数	15時間	授業形態	講義	単位数	1単位
---------	------	------	----	-----	------	------	----	-----	-----

科目名	地域と健康Ⅱ(Adv.)	担当者名	清水 保明
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨今、テレビや雑誌などでは、健康食品（関節サプリ、睡眠サプリ、肥満サプリ等）が多数宣伝されていますが、中には、誇大広告、詐欺と思われる製品も多数あります。</li> <li>・医療従事者は、健康食品の有効性や安全性を科学的に評価し、顧客のプライマリケアやセルフメディケーションを適切にサポートする役割があります。</li> <li>・本講座は、「薬学臨床(5)地域の保健・医療への参画 ③プライマリケア、セルフメディケーションの実践」のアドバンス科目です。</li> <li>・本科目では、健康食品の一つを選び、その前臨床試験及び臨床試験データを元に製品の機能性表示は適切であるか、また、顧客にその製品は推奨出来るかどうかをまとめて頂き、発表して貰います。</li> </ul>		
科目の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康食品の有効性と安全性を科学的に正しく評価することが出来る。□</li> <li>・健康食品の臨床試験及び前臨床データを正しく理解することが出来、それを元に、製品の有効性を判断出来る。□</li> <li>・健康食品の安全性及び使用上の注意点について、顧客へ説明出来る。□</li> <li>・目標達成に向け、グループのメンバーと協働することが出来る(2D2、2E3)</li> <li>・複数の情報を俯瞰して問題の本質を捉え、課題解決策を提案することが出来る。(1A4)</li> </ul>		
授業時間外学修(予習・復習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の1コマは、90分の授業と4時間の授業時間外学修から構成されます。</li> <li>・授業中は、主に、チームでの議論、調査の分担調整、教員への相談・質問に使用して下さい。</li> <li>・授業時間外学修(4時間)を利用して、調査や資料の作成を進めて下さい。</li> </ul>		
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間発表の後、本発表に向けて、資料の改善点をフィードバックします。</li> <li>・本発表の後、最終版作成に向け、資料の改善点をフィードバックします。</li> <li>・最終提出資料について、良い点、改善点など、評価結果をフィードバックします。</li> </ul>		
単位認定の要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は講義とアクティブラーニング(テーマ選定、調査、チーム内討議、資料作成、発表、全体議論)からなります。</li> <li>・グループワークですので、毎回必ず参加することが、大前提です。</li> <li>・中間発表、本発表、最終レポートの提出に参画することが、単位認定に必要なになります。(尚、筆記試験はありません)。</li> </ul>		
評価の方法・割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ評価80%(中間発表 10%、本発表 30%、最終提出資料 40%)と個人評価 20%で評価します。</li> <li>・グループ評価では、資料の完成度、調査範囲の広さ・深さ(論文の理解度)、結論を導くまでの論理性、質問に対する受け答え、他グループの発表への質問内容などを評価します。</li> <li>・個人評価では、課題への取組み姿勢や協働マインドを評価します(20%)。</li> <li>・評価の合計が60%に満たない場合は、再履修となります。</li> </ul>		
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は10月後半から毎週水曜日 13:00-14:30 演習室C(青森大学5号館3階)で行います。</li> <li>・グループワークですので、欠席、遅刻・早退は、個人評価より減点します。</li> <li>・テーマ名は、「〇〇は、△△を改善するか?〇〇は顧客に推奨出来るか?」です。問いと答えを対応させて下さい。</li> <li>・進め方やまとめ方で困った時は、教員に相談して下さい(授業中でも、研究室5414室に来て頂いても結構です)。</li> <li>・論文の選定やその読解に困った時も、遠慮せず、早目に相談して下さい。</li> <li>・授業、実習、会議などで不在の時以外は、何時でも対応します。事前にメールで日時を指定して頂ければ、確実です。 yasuaki.shimizu@aomori-u.ac.jp</li> </ul>		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1	10/25		<ol style="list-style-type: none"> <li>① 講義ガイダンス(授業の進め方、スケジュール)。</li> <li>② 講義:健康食品の分類と健康食品の問題点について。</li> <li>③ ワーク: 興味のある健康食品を1つ選定する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>③ 消費者庁のHP等を参考に臨床試験及び前臨床試験データが揃っている健康食品(その成分)を1つ選定する。</li> </ol>
2	11/1		<ol style="list-style-type: none"> <li>① 講義: 医薬品と健康食品の違いについて。医薬品が症状や病態に効くことを証明するには、どのような科学的データが必要かを理解する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>② Medlineや臨床試験データベース等から、対象製品(成分)に関する臨床試験、または、メタアナリシスの論文を見つける。</li> </ol>
3	11/8		<ol style="list-style-type: none"> <li>① 講義: 最終発表(提出)資料の構成について。</li> <li>② 講義: 臨床試験の質とエビデンスの高さについて。</li> <li>③ ワーク: 臨床試験の文献を読んでまとめる(試験方法、結果、課題)。</li> <li>④ ワーク: 対象製品(成分)の作用機序に関する文献を調査しまとめる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>③④ 論文を鵜呑みにせず、批判的に読みながら、論文の限界や課題についてもまとめる。</li> </ol>
4	11/15		<ol style="list-style-type: none"> <li>① 講義: 発表資料作成の基本ルールや推敲ポイントについての解説。</li> <li>② ワーク: 調査継続と中間発表資料の作成</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>② 基本的ルールや推敲ポイントを意識しながら発表資料を作成する。</li> </ol>
5	11/22		ワーク: 中間発表(製品概要表と臨床試験の方法、結果と考察のみを発表)	臨床試験の論文が分かりやすく説明出来ているかを評価します。
6	12/6		ワーク: 指摘事項を踏まえて、追加調査と最終発表資料の作成を行う。健康食品が顧客の症状・病態改善にとって有益か無益か、また、健康食品よりも優れた代替法がないかについても検討します。	なぜ、有益か、無益かをエビデンス(データ)に基づいて、論理的・科学的に説明する。

7	12/13		第1グループの本発表（作用機序と臨床試験の結果から推奨出来るか？）	結論や代替法の提案の論理性、科学性を評価します。
8	12/20		第2グループの本発表（作用機序と臨床試験の結果から推奨出来るか？）	結論や代替法の提案の論理性、科学性を評価します。
9			学生からの質問や教員からのフィードバックを元に、 追加・修正を行った最終資料を提出（12/23まで）	
10				
11				
12				
13				
14				
15				
期末試験				

使用テキスト	なし
参考文献 参考URL	・参考：消費者庁のホームページ：機能性表示食品制度届出データベース <a href="https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/foods_with_function_claims/">https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/foods_with_function_claims/</a>
備考	特記事項なし